

## 第三者評価結果シート（児童養護施設）

種別	児童養護施設
----	--------

### ①第三者評価機関名

特定非営利活動法人エール・フォーユー
--------------------

### ②評価調査者研修修了番号

S16005
19-13
S15007

### ③施設名等

名称：	寒河江学園
施設長氏名：	丹野敏晴
定員：	50名(暫定49名) (33名)
所在地(都道府県)：	山形県
所在地(市町村以下)：	寒河江市字下河原224番地の1
T E L：	0237-84-2853
U R L：	
<b>【施設の概要】</b>	
開設年月日	1956/9/29
経営法人・設置主体(法人名等)：	社会福祉法人寒河江学園
職員数 常勤職員：	27名
職員数 非常勤職員：	4名
専門職員の名称(ア)	指導員
上記専門職員の人数：	9名
専門職員の名称(イ)	保育士
上記専門職員の人数：	11名
専門職員の名称(ウ)	栄養士
上記専門職員の人数：	1名
専門職員の名称(エ)	調理師
上記専門職員の人数：	4名
専門職員の名称(オ)	臨床心理士
上記専門職員の人数：	2名
専門職員の名称(カ)	
上記専門職員の人数：	名
施設設備の概要(ア) 居室数：	一人部屋 22室 四人部屋 7室
施設設備の概要(イ) 設備等：	食堂・リビング・キッチン:2ヶ所 リビング・キッチン:1ヶ所
施設設備の概要(ウ)：	
施設設備の概要(エ)：	

### ④理念・基本方針

<p><b>【理念】</b>          子どもの最善の利益を守り地域から信頼される学園を目指す。</p> <p><b>【基本方針】</b>          虐待を受けている又は不安定な環境にある、保護者がいないなど、家庭環境上養護を要する子どもを受け入れて、心身ともに明るく健康な子ども、活力のある子ども、善悪の決断を実行できる子どもを育成し、社会生活に対応できる能力を持った子どもとなるよう養育する。          近年虐待を受けた子どもや発達障害を持つ子ども等の入所が増加する中、他者との関係を再認識して改善しうる支援を行う。また、愛着障害が見られる子どもには、できる限り家庭的な環境の中で個別的な支援や援助を行い、社会的に自立できる子どもの育成を目指す。</p>
---

### ⑤施設の特徴的な取組

<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 卒園生の会「若竹会」を卒園者の数名が幹事を務め、2年に1回の夏に卒園者と旧職員も含めた親睦交流を行っている。</li> <li>2. なかなか自宅に帰れない子どもに家庭生活の雰囲気味わってもらえるよう一緒に買い物に行ったり、食事を一緒に作りたりして子どもの情緒の安定や自立の促進に繋げる「家庭生活体験事業」を行っている。</li> <li>3. 家庭支援専門相談員2名を配置し、ファミリーソーシャルワークの推進を図っており、子どもの気持ちや意見を大切にしながら、家族とのより良い関係の再構築を目指し、関係機関と連携して家族との交流を支援している。</li> <li>4. 多くの職員が内部・外部の研修会に参加し倫理や知識を高め、専門的技術・養育技術の習得に努め、職員の資質の向上を図っている。</li> <li>5. 子ども家庭支援センター チェリーを併設し、地域に密着した児童福祉に関する専門の相談機関として地域の子育て相談等のニーズに応え連携している。</li> </ol>
---

## ⑥第三者評価の受審状況

評価実施期間（ア）契約日（開始日）	2017/4/28
評価実施期間（イ）評価結果確定日	2017/12/22
受審回数	1回
前回の受審時期	平成26年度

## ⑦総評

### ◆特に評価の高い点

#### 1. 文化活動について

学園では以前から俳句作りを指導推奨しており、子ども達が普段の生活の中から素直に感じたことを俳句に込めて表現し作品を作り、昨年は全国小中学生俳句大会に出品し2名の入選を果たし、また企業主催の新俳句大会でも入選4名が出るほどレベルの高さがうかがわれます。作品を施設内に掲示して子ども達の情緒が育ち喜びや楽しみとなり、更なる意欲に繋がっています。また書道も取り入れて、先輩が社会に出て字が上手だねと褒められることもあり、習ってきたことが良かったという声を聞き自信にもなっていることから、子ども達は真剣に頑張っています。

#### 2. 児童自治会について

児童自治会は、年10回程開催して子ども達の選挙で会長・副会長・書記を決め、会長が中心となって総会をしており、出てきた意見や要望等を園長へ提出し改善に結び付けています。また子ども達自身で改正委員会を作り生活しやすいように取り組んでいます。文化部・体育部・保健部・装飾部のいずれかに所属し、各部長がリーダーとなり将来の社会生活に役立つような活動が行われています。特に文化部は毎月の誕生会を企画し、案内や顔写真等を廊下に掲示をするなど共同作業が行われています。山形県5つの児童養護施設が合同で少年自然の家で開催する「ワイワイ交流会」に参加し、感謝・敬意・協調する心が育まれています。

#### 3. 職員の育成について

職員会議では毎月「倫理綱領」を唱和して職員の自覚を促し共有を図っており、報告や連絡にとどまらず、ケース検討会・支援計画検討会・技術向上のための内部研修も併せて行い、全職員の共通の理解と認識のもと統一した支援を行っています。若い職員が多く、意見を広めてもらいたいと外部研修（県内・県外）にも積極的に参加し、また先輩職員の副担当になり（OJT）養育・支援の対応や技術指導を受けて全体のレベルアップに繋がっています。

### ◆改善が求められる点

#### 1. 被措置児童等虐待の届出・通告について

山形県児童養護施設協議会の「被措置児童等虐待防止マニュアル」で周知され、第三者委員会を設置し意見を聞くなどの体制を整備しています。虐待の届出・通告制度については、周知不足や虐待の届出・通告の対応マニュアルが無いことから、研修等で周知を図り対応マニュアルの作成に期待します。

#### 2. 中・長期計画について

中・長期計画の中の「家庭的養護推進計画」の小規模化・分園化の構想については、国や山形県の動向を注視しながら入所児童の減少・地域性・時期的な状況等も考慮して、具体的な目標を設定した計画の策定に期待します。

## ⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

おおむね適正な評価であると思います。改善が求められる点について、第1点については県より示されている虐待防止マニュアル等を参考にしながら作成したいと思います。第2点についてははまだ年月等の具体的な時期を示すことは難しいと思われませんが、小規模化・分園化に向けた計画を策定したいと思います。

## ⑥第三者評価結果（別紙）

# 第三者評価結果（児童養護施設）

## 共通評価基準（45項目）Ⅰ 養育・支援の基本方針と組織

### 1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。		第三者 評価結果	
①	1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	a	1
	<input type="checkbox"/> 理念、基本方針が文書(事業計画等の法人・施設内の文書や広報誌、パンフレット、ホームページ等)に記載されている。		
	<input type="checkbox"/> 理念は、法人・施設が実施する養育・支援の内容や特性を踏まえた法人・施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。		
	<input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されているとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。		
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。		
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、子どもや保護者等への周知が図られている。		
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。		
【コメント】			
毎年4月に理念・基本方針が記載してある事業計画書を全職員に配布し周知している。夏に保護者会を開催し、わかりやすく説明した資料を配布し説明を行い、子ども達には児童総会等で周知を図っている。			

### 2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。		第三者 評価結果	
①	2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	a	2
	<input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。		
	<input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。		
	<input type="checkbox"/> 子どもの数・子ども像等、養育・支援のニーズ、潜在的に支援を必要とする子どもに関するデータを収集するなど、法人・施設が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。		
	<input type="checkbox"/> 定期的に養育・支援のコスト分析や施設入所を必要とする子どもの推移、利用率等の分析を行っている。		
【コメント】			
児童相談所からの措置の入所で、定員に満たない状況にあり厳しい環境の中でも経営状況を的確に把握・分析しており、子ども像や養育・支援のニーズを捉え情報分析しながら経営に繋げている。			
②	3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	a	3
	<input type="checkbox"/> 経営環境や養育・支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。		
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員(理事・監事等)間での共有がなされている。		
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。		
	<input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。		
【コメント】			
養育・支援の内容や組織体制強化のため、前年度に常勤職員3名並びに非常勤職員2名を採用して人員体制を整備している。各居室出入り口の旧吊り引き戸が老朽化のため明かりとりを兼ねたモダンな戸車式引き戸に替えるなど設備環境を整備している。			

### 3 事業計画の策定

(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	第三者 評価結果	
<p>① 4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。</p> <p><input type="checkbox"/> 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。</p> <p><input type="checkbox"/> 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。</p> <p>【コメント】</p> <p>中・長期計画の一つである「家庭的養護推進計画」の小規模化、分園化の構想について地域性や時期的な状況を勘案しながら具体的な計画の策定に期待したい。</p>	b	4
<p>② 5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 単年度の計画には、中・長期計画の内容を反映した単年度における事業内容が具体的に示されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、実行可能な具体的な内容となっている。</p> <p><input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。</p> <p><input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。</p> <p>【コメント】</p> <p>単年度の事業計画は、上半期経過後も養育・支援や業務と共に運営が安定化した計画になっている。</p>	a	5
<p>(2) 事業計画が適切に策定されている。</p> <p>① 6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。</p> <p><input type="checkbox"/> 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)されており、理解を促すための取組を行っている。</p> <p>【コメント】</p> <p>事業計画は、毎年職員に資料配布と説明をし理解を得て、職員会議で意見を集約し反映されている。事業計画の実施状況は、上半期・下半期毎に評価を行い見直し、次年度の計画策定に繋いでいる。</p>	a	6

②	7 事業計画は、子どもや保護者等に周知され、理解を促している。	a	7
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、子どもや保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。		
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を子ども会や保護者会等で説明している。		
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、子どもや保護者等がより理解しやすいような工夫を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 事業計画については、子どもや保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。		
【コメント】			
事業計画は、児童総会においてわかりやすくした資料で、年2回説明をしている。保護者等には、お盆の帰省時に保護者会を開催して資料を配布し説明を行っている。			

#### 4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。		第三者 評価結果	
①	8 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	a	8
	<input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく養育・支援の質の向上に関する取組を実施している。		
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容について組織的に評価(C: Check)を行う体制が整備されている。		
	<input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的に受審している。		
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。		
【コメント】			
支援計画は、半年に1回職員会議において内容の評価を行い、結果について職員専用パソコンでの閲覧共有も図っている。毎年自己評価を行い、PDCA(計画・実行・評価・見直し)サイクルにもとづいた養育・支援の質向上に取り組んでいる。			
②	9 評価結果にもとづき施設として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	a	9
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。		
	<input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。		
	<input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。		
	<input type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。		
	<input type="checkbox"/> 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。		
【コメント】			
毎年の自己評価結果にもとづいて、職員会議はすべての物ごとの合意形成の場と捉え時間をかけて取り組んでいる。			

## II 施設の運営管理

### 1 施設長の責任とリーダーシップ

(1) 施設長の責任が明確にされている。	第三者 評価結果	
<p>① 10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。</p> <p><input type="checkbox"/>平常時のみならず、有事(災害、事故等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。</p>	a	10
<p>【コメント】</p> <p>園長は、子どもの養育・支援については職員を尊重し、施設経営や運営に力をいれて働きやすい職場環境づくりを目指している。また広報誌「若あゆ」に職責表明や取組状況等を掲載し地域や関係機関に配布して理解を図っている。</p>		
<p>② 11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等)との適正な関係を保持している。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。</p>	a	11
<p>【コメント】</p> <p>園長は長く行政に携わってきており、法令遵守しながら関係機関との適正な関係を保っている。職員一人ひとりの面談を通して思いや意見の聴取を行い、意思疎通を図り信頼関係に努めている。子どもの暴力・虐待等の防止に向けては職員会議の場で行い、新たな規則の改正があった場合は速やかに回覧文書で周知を図っている。施設長研修の参加を予定しており、自己研鑽に励むなどの意欲を示している。</p>		
<p>(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。</p> <p>① 12 養育・支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、養育・支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、養育・支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、養育・支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。</p>	a	12
<p>【コメント】</p> <p>養育・支援については、各フロアから上がってきた問題を洗い出し、幹部による指導会議で整理して職員会議に諮っている。また問題があればその都度園長が指示・指導・助言を行い職員の質の向上に繋いでいる。</p>		

②	<p>13 経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。</p>	a	13
<p>【コメント】</p> <p>人員配置は、配置基準に合った実人数の確保になっている。業務はスムーズに経過しており、財源が減少する中で来年度に向けた経営・業務改善の取組や人事評価、労務管理、財務管理を踏まえた実効性のある方向性を検討している。</p>			

## 2 福祉人材の確保・育成

(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。		第三者 評価結果	
①	<p>14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。</p> <p><input type="checkbox"/>必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。</p> <p><input type="checkbox"/>養育・支援に関わる専門職(有資格の職員)の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。</p> <p><input type="checkbox"/>計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。</p> <p><input type="checkbox"/>法人・施設として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。</p> <p><input type="checkbox"/>各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。</p>	a	14
<p>【コメント】</p> <p>専門職員を多く配置し今年度も増員しており、臨時職員(単年度採用)制度を廃止して準職員(複数年採用)に格上げするなど人員体制の充実に努めている。職務分担では新人職員は先輩職員の副担当となって指導してもらうなど、職員育成に取り組んでいる。</p>			

②	<p>15 総合的な人事管理が行われている。</p> <p><input type="checkbox"/>法人・施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にしている。</p> <p><input type="checkbox"/>人事基準(採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準)が明確に定められ、職員等に周知されている。</p> <p><input type="checkbox"/>一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。</p> <p><input type="checkbox"/>職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。</p> <p><input type="checkbox"/>職員が、自ら将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みづくりができている。</p>	a	15
<p>【コメント】</p> <p>事業計画に「寒河江学園の求める職員像」5項目を明記し、職員会議等で周知して実践に繋げている。法人の就業規則にもとづいて人事管理が行われており、準職員の希望者には正職員登用試験を実施している。</p>			

(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。

①	16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	a	16
	<input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。		
	<input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。		
	<input type="checkbox"/> 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。		
	<input type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の悩み相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような施設内の工夫をしている。		
	<input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。		
	<input type="checkbox"/> ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。		
	<input type="checkbox"/> 人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。		

【コメント】

職員の勤務形態は夜勤を全職員同じ回数・シフト交換・完全週休2日制・有給休暇などを取り入れ、ワーク・ライフ・バランスに配慮している。園長による職員との個別面談も定期的に行われている。

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

①	17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	b	17
	<input type="checkbox"/> 施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。		
	<input type="checkbox"/> 個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標が設定されている。		
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりの目標の設定は、目標項目、目標水準、目標期限が明確にされた適切なものとなっている。		
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。		
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。		

【コメント】

「寒河江学園の求める職員像」を明確にし、職員は園長との定期的な個別面談で不満や困っている事・今年度の目標などを話している。職員一人ひとりが設定した目標の明文化・進捗状況や目標達成度の確認の実施を期待したい。

②	18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	a	18
	<input type="checkbox"/> 施設が目指す養育・支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。		
	<input type="checkbox"/> 現在実施している養育・支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。		
	<input type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。		
	<input type="checkbox"/> 定期的に計画の評価と見直しを行っている。		
	<input type="checkbox"/> 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。		

【コメント】

年間研修計画が策定され年度初めに職員に配布し、今年度の事業計画にも園内研修の充実を明記しており、計画通り遂行している。若い職員が多く見聞を広めてほしいと外部研修に積極的に参加させるなど人材育成に取り組んでいる。

③	19 職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	a	19
	<input type="checkbox"/> 個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。		
	<input type="checkbox"/> 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。		
	<input type="checkbox"/> 階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。		
	<input type="checkbox"/> 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。		
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。		

【コメント】

全職員が研修する機会が確保されており、外部研修に参加後は復命書を提出し職員会議で報告をして共有している。疑問点や判断に迷う時は幹部職員にいつでも相談できる体制ができている。

(4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。

①	20 実習生等の養育・支援に関わる専門職の教育・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	b	20
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援に関わる専門職の教育・育成に関する基本姿勢を明文化している。		
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援の専門職の教育・育成についてのマニュアルが整備されている。		
	<input type="checkbox"/> 専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。		
	<input type="checkbox"/> 指導者に対する研修を実施している。		
	<input type="checkbox"/> 実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。		

【コメント】

実習生の要請は各大学等から多数あり、年間を通して積極的に受け入れている。A実習（幼児担当）・B実習（児童担当）と用意したプログラムに沿って指導担当職員を決めて実施している。

### 3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。

第三者  
評価結果

①	21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	a	21
	<input type="checkbox"/> ホームページ等の活用により、法人・施設の理念や基本方針、養育・支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。		
	<input type="checkbox"/> 施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公表している。		
	<input type="checkbox"/> 第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公表している。		
	<input type="checkbox"/> 法人・施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人・施設の存在意義や役割を明確にするように努めている。		
	<input type="checkbox"/> 地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。		

【コメント】

広報誌「若あゆ」は年2回発行し、1回目は事業報告、2回目は苦情受付・解決状況を公表して関係機関等に配布している。子ども達の作文の掲載は個人情報にも配慮している。

②	22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a	22
	<input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等に関するルールが明確にされ、職員等に周知している。		
	<input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等に関する職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。		
	<input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等について、必要に応じて外部の専門家に相談し、助言を得ている。		
	<input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。		
	<input type="checkbox"/> 外部監査の活用等により、事業、財務に関する外部の専門家によるチェックを行っている。		
	<input type="checkbox"/> 外部監査の結果や公認会計士等による指導や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。		
【コメント】			
毎月、税理士による財務諸表の監査があり、アドバイスを受けて適正な運営が行われている。事業報告及び決算については毎会計年度終了後に監事の監査を経てから理事会の承認を得ている。			

#### 4 地域との交流、地域貢献

(1)	地域との関係が適切に確保されている。	第三者 評価結果	
①	23 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	a	23
	<input type="checkbox"/> 地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。		
	<input type="checkbox"/> 子どもの個別的状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。		
	<input type="checkbox"/> 施設や子どもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。		
	<input type="checkbox"/> 子どもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々の子どものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。		
	<input type="checkbox"/> 学校の友人等が施設へ遊びに来やすい環境づくりを行っている。		
【コメント】			
学園の3大行事「地蔵尊祭り」「クリスマスパーティー」「壮行式」は地域や関係機関を招待して盛大に行われている。近隣の特別養護老人ホームには子ども達が敬老の日に手紙を持参して慰問している。地区の子ども達の来園が毎日あり、体育館やフロアで一緒に遊び交流している。			
②	24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	a	24
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。		
	<input type="checkbox"/> 地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化している。		
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している		
	<input type="checkbox"/> ボランティアに対して子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 学校教育への協力を行っている。		
【コメント】			
ボランティア受入規則マニュアルを整備し、確認書・誓約書を交わしている。長年継続して来園してくれるボランティア団体が多く年間行事に組み込まれ、子ども達も交流を楽しみにしている。			

(2) 関係機関との連携が確保されている。

①	25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	b	25
	<input type="checkbox"/> 当該地域の関係機関・団体について、個々の子どもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。		
	<input type="checkbox"/> 職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。		
	<input type="checkbox"/> 関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 地域に適切な関係機関・団体がない場合には、子どものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。		

【コメント】

福祉事務所や児童相談所等の関係機関とは常に連携を図り、小学校や中学校とは定期的に連絡会を開催して情報を共有している。幼稚園・学校の行事やPTA活動には職員が参加しており、副園長が学校の評議員として関わっている。学芸会や運動会には保護者にも参加案内している。

(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。

①	26 施設が有する機能を地域に還元している。	b	26
	<input type="checkbox"/> 施設のスペースを活用して地域住民との交流を意図した取組を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 施設の専門性や特性を活かし、地域住民の生活に役立つ講演会や研修会等を開催して、地域へ参加を呼びかけている。		
	<input type="checkbox"/> 施設の専門性や特性を活かした相談支援事業、支援を必要とする地域住民のためのサークル活動等、地域ニーズに応じ住民が自由に参加できる多様な支援活動を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 災害時の地域における役割等について確認がなされている。		
	<input type="checkbox"/> 多様な機関等と連携して、社会福祉分野に限らず地域の活性化やまちづくりに貢献している。		

【コメント】

子ども家庭支援センター チェリーを併設し、地域の子育て相談等のニーズに応じており連携を図っている。地区の防災訓練や総会に参加して、学園の有する移動式自家発電機の設備等について説明している。

②	27 地域の福祉ニーズにもとづく公益的な事業・活動が行われている。	b	27
	<input type="checkbox"/> 施設の機能を地域に還元することなどを通じて、地域の福祉ニーズの把握に努めている。		
	<input type="checkbox"/> 民生委員・児童委員等と定期的な会議を開催するなどによって、具体的な福祉ニーズの把握に努めている。		
	<input type="checkbox"/> 地域住民に対する相談事業を実施することなどを通じて、多様な相談に応じる機能を有している。		
	<input type="checkbox"/> 関係機関・団体との連携にもとづき、具体的な福祉ニーズの把握に努めている。		
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズにもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。		
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズにもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。		

【コメント】

子育て短期支援事業として西村山市町村と契約しており、ショートステイとトワイライトステイの委託事業を行い、地域の福祉ニーズに対応している。

Ⅲ 適切な養育・支援の実施

1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもを尊重する姿勢が明示されている。	第三者 評価結果	
<p>① 28 子どもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念や基本方針に、子どもを尊重した養育・支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援実施に関する基本姿勢が、個々の養育・支援の標準的な実施方法等に反映されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。</p>	a	28

【コメント】

養育・支援にあたっては国が定めた倫理綱領にもとづいて実施している。1ヶ月に1回、担当職員が中心となって暴力問題聞き取りを行い、いじめやいたずら等がないか聞き取って物事を未然に防ぐよう取り組んでいる。さらに職員が聞くだけでなく子ども達が自ら訴えられる場、言える雰囲気づくりを目指している。

<p>② 29 子どものプライバシー保護等の権利擁護に配慮した養育・支援の実施が行われている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの虐待防止等の権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護と虐待防止に関する知識、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務、子どものプライバシー保護や権利擁護に関する規程・マニュアル等について、職員に研修を実施している。</p> <p><input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守るよう設備等の工夫を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもや保護者等にプライバシー保護と権利擁護に関する取組を周知している。</p> <p><input type="checkbox"/> 規程・マニュアル等にもとづいた養育・支援が実施されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 不適切な事案が発生した場合の対応方法等が明示されている。</p>	a	29

【コメント】

子どものプライバシーについては規程があり職員は確認し理解している。山形県被措置児童等虐待防止マニュアルを全職員に配布して随時読み合わせを行って共有している。権利ノートは各フロアに設置し、いつでも見られるようにして、また児童総会や保護者会で説明している。

(2) 養育・支援の実施に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。

①	30 子どもや保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。	a	30
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針、養育・支援の内容や施設の特性等を紹介した資料を準備している。		
	<input type="checkbox"/> 施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。		
	<input type="checkbox"/> 施設に入所予定の子どもや保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。		
	<input type="checkbox"/> 見学等の希望に対応している。		
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。		

【コメント】

入所予定の子どもには家庭支援専門相談員や担当職員が面接や迎えに行くなどして、園側の情報を提供している。プライバシーや金銭面の管理、約束ごとについての説明を行い不安がないように努めている。

②	31 養育・支援の開始・過程において子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	a	31
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程における養育・支援の内容に関する説明と同意にあたっては、子どもや保護者等の自己決定を尊重している。		
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等がわかりやすいように工夫した資料を用いて説明している。		
	<input type="checkbox"/> 説明にあたっては、子どもや保護者等が理解しやすいような工夫や配慮を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。		
	<input type="checkbox"/> 意思決定が困難な子どもや保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。		

【コメント】

児童相談所のアセスメントにもとづいて保護者の状況を確認し、心理担当職員からも意見を聞き、自立支援計画策定に繋いでいる。意思決定のむずかしい幼児や低学年児、発達障害の子どもについては関係機関等の意見を尊重し理解を得ている。

③	32 措置変更や地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。	b	32
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。		
	<input type="checkbox"/> 他の施設や地域・家庭への移行にあたり、養育・支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。		
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した後も、施設として子どもや保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。		
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した時に、子どもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。		

【コメント】

地域・家庭への移行後の支援について手順等の文書は定めていないが、一人ひとりの事情に配慮して相談窓口は知らせている。基幹的職員が担当者として任にしている。就職に失敗した場合等の対応がむずかしい状況にある。今後さらに文書等での周知が図られるよう期待したい。

(3) 子どもの満足の向上に努めている。	第三者 評価結果	
<p>① 33 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの満足に関する調査が定期的に行われている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どものへの個別の相談面接や聴取等が、子どもの満足を把握する目的で定期的に行われている。</p> <p><input type="checkbox"/>職員等が、子どもの満足を把握する目的で、子ども会等に出席している。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、子ども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。</p> <p><input type="checkbox"/>分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。</p>	b	33
【コメント】		
<p>学園独自のアンケートは行っていないが児童総会や部屋のお茶会・誕生会などでいろいろな話をしながら自然な形で聞き取りを行っている。話の内容によっては指導会議に図り不満の解消・改善に取り組んでいる。</p>		
(4) 子どもが意見等を述べやすい体制が確保されている。		
<p>① 34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。</p> <p><input type="checkbox"/>苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。</p> <p><input type="checkbox"/>苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を子どもや保護者等に配布し説明している。</p> <p><input type="checkbox"/>苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、子どもや保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>苦情内容については、受付と解決を図った記録が適切に保管している。</p> <p><input type="checkbox"/>苦情内容に関する検討内容や対応策については、子どもや保護者等に必ずフィードバックしている。</p> <p><input type="checkbox"/>苦情内容及び解決結果等は、苦情を申し出た子どもや保護者等に配慮したうえで、公表している。</p> <p><input type="checkbox"/>苦情相談内容にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。</p>	a	34
【コメント】		
<p>苦情解決規程に沿って体制は整備されており、また苦情を申し出た場合の個人のプライバシーは守られている。内容や結果は公表することとしているが今のところ目立った苦情は寄せられていない。</p>		
<p>② 35 子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、子ども等に周知している。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもが相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選べることをわかりやすく説明した文書を作成している。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもや保護者等に、その文章の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。</p>	a	35
【コメント】		
<p>意見箱(しあわせポスト)はみんなが通る玄関脇に設置してあり、いつでもどんな事でも投稿できるようにしている。「ビデオがこわれた」などの意見はあるが苦情に至るケースはない。鍵は園長が管理をし、第三者に相談できることを知らせる内容の掲示を行っている。</p>		

③	36 子どもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	a	36
	<input type="checkbox"/> 相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。		
	<input type="checkbox"/> 対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。		
	<input type="checkbox"/> 職員は、日々の養育・支援の実施において、子どもが相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。		
	<input type="checkbox"/> 意見箱の設置、アンケートの実施等、子どもの意見を積極的に把握する取組を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 意見等にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。		

【コメント】

個人の聞き取りのほかに児童総会を通して子どもの意見を聞く場を設けている。要望の中にはすぐに対応できることとできないことがあり、説明し理解を得ている。また子ども達自身で改正委員会をつくり解決を図る場面もみられる。

(5) 安心・安全な養育・支援の実施のための組織的な取組が行われている。

第三者  
評価結果

①	37 安心・安全な養育・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	b	37
	<input type="checkbox"/> リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネジャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。		
	<input type="checkbox"/> 事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。		
	<input type="checkbox"/> 子どもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。		
	<input type="checkbox"/> 収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。		
	<input type="checkbox"/> 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。		

【コメント】

リスクマネジャーは置いていないが園長が責任者になっている。事故対応マニュアルを整備し、何かあれば職員会議で報告し迅速な対応をとっている。また職員によって対応に差がないように周知を図り安全・安心な生活に取り組んでいる。

②	38 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a	38
	<input type="checkbox"/> 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。		
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し、職員に周知徹底している。		
	<input type="checkbox"/> 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。		
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防策が適切に講じられている。		
	<input type="checkbox"/> 感染症の発生した場合には対応が適切に行われている。		
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を定期的に見直している。		

【コメント】

感染症対策マニュアルが整備してあり、それぞれの感染症について対応が示されている。また季節によって流行り出すものについては、マニュアルの中から抜粋して掲示し、再確認と危機意識を持つように促し予防に努めている。インフルエンザの予防注射については学園全員に実施している。

③	39 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	a	39
	<input type="checkbox"/> 災害時の対応体制が決められている。		
	<input type="checkbox"/> 立地条件等から災害の影響を把握し、建物・設備類、養育・支援を継続するために必要な対策を講じている。		
	<input type="checkbox"/> 子ども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。		
	<input type="checkbox"/> 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。		
	<input type="checkbox"/> 防災計画等整備し、地元の行政をはじめ、消防署、警察、自治会、福祉関係団体等と連携するなど、体制をもって訓練を実施している。		
【コメント】			
「消防計画書」に火災・水害・地震等の対応が詳しく明記しており、毎月子どものいる土・日に想定を替えて避難訓練を実施している。自衛消防組織の編成や役割分担、災害時の地域との協力についても明記してある。水や移動式自家発電機、テント等の備蓄があり、子ども達はすぐにテントが張れるよう小さい時から訓練し災害に備えている。			

## 2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の標準的な実施方法が確立している。		第三者 評価結果	
①	40 養育・支援について標準的な実施方法が文書化され養育・支援が実施されている。	a	40
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法が適切に文書化されている。		
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法には、子どもの尊重、プライバシーの保護や権利擁護に関わる姿勢が明示されている。		
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。		
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。		
【コメント】			
標準的な養育・支援は規程に基づき実施し、職員はプライバシーや権利擁護について共通認識のもと統一した養育に取り組んでいる。			
②	41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a	41
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。		
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的に行われている。		
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。		
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、職員や子ども等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。		
【コメント】			
若い職員は特に思春期や反抗期を迎えた子どもの対応に悩むこともあり、先輩職員のアドバイスを受け臨機応変な養育・支援になるよう努め、個別目標を検討し半年毎に実施方法の見直しを行っている。			

(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。

①	42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。	a	42
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画策定の責任者を設置している。		
	<input type="checkbox"/> アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。		
	<input type="checkbox"/> 部門を横断したさまざまな職種の関係職員(種別によっては施設以外の関係者も)が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。		
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画には、子ども一人ひとりの具体的なニーズが明示されている。		
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員(種別によっては組織以外の関係者も)の合議、子どもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。		
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画どおりに養育・支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。		
	<input type="checkbox"/> 支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な養育・支援が行われている。		

【コメント】

児童相談所からのアセスメントの他、入所してから相違がでてくる場合があり、さらにアセスメントを行い、基幹的職員を中心に園長・副園長の意見をもらい自立支援計画に反映している。

②	43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	a	43
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、子どもの意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。		
	<input type="checkbox"/> 見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。		
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。		
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、養育・支援を十分に実施できていない内容(ニーズ)等、養育・支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。		

【コメント】

ケース記録はいつでも確認できる仕組みがあり、目標設定が変われば基幹的職員が中心となり、担当職員、また夜勤はすべての職員がローテーションで回るので、全員の子どもを把握しており評価・見直しを行っている。

(3) 養育・支援の実施の記録が適切に行われている。

①	44 子どもに関する養育・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化している。	a	44
	<input type="checkbox"/> 子どもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。		
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画にもとづく養育・支援が実施されていることを記録により確認することができる。		
	<input type="checkbox"/> 記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。		
	<input type="checkbox"/> 施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。		
	<input type="checkbox"/> 情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。		
	<input type="checkbox"/> パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの回覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。		

【コメント】

記録はパソコンのソフトを利用して入力し、パスワードを決めて勝手に開くことはできないようになっている。日々の保育日誌、フロア日誌、ケース記録、養護日誌等職員はいつでも確認・共有できる体制にある。

②	45 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	a	45
	<input type="checkbox"/> 個人情報保護規程等により、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。		
	<input type="checkbox"/> 個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。		
	<input type="checkbox"/> 記録管理の責任者が設置されている。		
	<input type="checkbox"/> 記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。		
	<input type="checkbox"/> 職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。		
	<input type="checkbox"/> 個人情報の取扱いについて、子どもや保護者等に説明している。		

【コメント】

文書管理は定款で決められており、印刷したものを保管するようにしている。情報公開については内規に従い、行うよう定められている。

内容評価基準（41項目） A-1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもの尊重と最善の利益の考慮	第三者 評価結果	
<p>① A1 社会的養護が子どもの最善の利益を目指して行われることを職員が共通して理解し、日々の養育・支援において実践している。</p> <p><input type="checkbox"/> 養育・支援の内容が子どもにとって最善の利益になっているかを、振り返り検証する機会が設けられている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの養育や成長にとって何が最善なのかを、職員間において常に話し合える環境にある。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員が日々子どもとのやり取りを振り返り、必要に応じてスーパービジョンを受けられる環境が整っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 受容的・支持的なかかわりを基本としながらも、養育者として伝えるべきメッセージはきちんと伝えるなど、子どもの状況に応じて適切な対応ができるよう、常に子どもの最善の利益を考慮し真摯に向き合っている。</p>	a	A1
<p>【コメント】</p> <p>毎月の職員会議では、「倫理綱領」を唱和して共通の理解と意識をもって、子どもの最善の利益に繋がるよう臨んでいる。外部講師によるスーパービジョンを心理担当職員が受講し、また職員全体のケース検討会にも指導助言をもらい質の高い養育・支援に繋げている。</p>		
<p>② A2 子どもの発達段階に応じて、子ども自身の出生や生い立ち、家族の状況について、子どもに適切に知らせている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの発達段階等に応じて、適切に事実を伝えようと努めている。</p> <p><input type="checkbox"/> 事実を伝える場合には、個別の事情に応じて慎重に対応している。</p> <p><input type="checkbox"/> 伝え方や内容などについて職員会議等で確認し、職員間で共有している。</p> <p><input type="checkbox"/> 事実を伝えた後、子どもの変容などを十分把握するとともに、適切なフォローを行っている。</p>	a	A2
<p>【コメント】</p> <p>子どもの生い立ちや家族状況についての知らせは、年齢や個人差があり時期・方法等についても児童相談所と連携し、また職員間でも話し合いを行い適切な時期に説明している。知らせたからは担当職員が寄り添い、他職員もフォローし心が安定するよう見守っている。</p>		

(2) 権利についての説明

①	A3 子どもに対し、権利について正しく理解できるよう、わかりやすく説明している。	b	A3
	<input type="checkbox"/> 定期的に全体場で権利についての理解を深めるよう、子どもたちに説明している。		
	<input type="checkbox"/> 権利ノートやそれに代わる資料等を使用して、施設生活の中で保障されるさまざまな権利についてわかりやすく説明している。		
	<input type="checkbox"/> 年齢に配慮した説明を工夫している。(例えば高校生、中学生、小学生などに分けた説明の機会)		
	<input type="checkbox"/> 定期的に職員間で子どもの権利に関する学習機会を持っている。		
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりがかけがえない大切な存在であり、自分を傷つけたりおとしめたりしてはならないことまた、他人を傷つけたり脅かしたりしてはならないことが、日々の養育の中で伝わっている。		

【コメント】

子ども達には、児童総会時に権利について資料の配布と説明を行い、各フロアに権利ノートを設置しいつでも見られるようにしているが、小学生・中学生・高校生など年齢別に分けた説明の機会を設けることが望まれる。

(3) 他者の尊重

①	A4 様々な生活体験や多くの人たちとのふれあいを通して、他者への心づかいや他者の立場に配慮する心が育まれるよう支援している。	a	A4
	<input type="checkbox"/> 基本的な信頼感を獲得するなど良好な人間関係を築くために職員と子どもとが個別的にふれあう時間を確保している。		
	<input type="checkbox"/> 喧嘩など子ども間でトラブルが生じた場合、相手の人格を尊重しながら、基本的には子ども同士で関係を修復できるよう支援をしている。		
	<input type="checkbox"/> 日々の生活や行事等で、子どもが協働して行う場面では、助け合い、認め合い、協力し合い、感謝し合う態度を促進するよう支援している。		
	<input type="checkbox"/> 年下の子どもや障がいのある子どもなど弱い立場にある仲間に対しては、思いやりの心をもって接するように支援している。		

【コメント】

喧嘩やトラブルがあった場合には、原因を突き止め子ども同士の解決に向けた指導を行っている。いじめについてはしっかりと説明を行い防止に努めている。山形県5つの児童養護施設が少年自然の家で開催する「ワイワイ交流会」に参加し、感謝・敬い・協調する心が育まれるように支援している。

(4) 被措置児童等虐待対応

①	A5 いかなる場合においても体罰や子どもの人格を辱めるような行為を行わないよう徹底している。	a	A5
	<input type="checkbox"/> 「就業規則」等の規程に体罰等の禁止を明記しており、規程に基づいて厳正に処分などを行う仕組みが行われている。		
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待防止ガイドラインに示されているような具体的な例を示して、日常的な会議や研修会等で体罰等を禁止している。		
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等への虐待行為や不適切対応があった場合、主管行政窓口や児童相談所等に報告するとともに第三者委員等も入れて適切な調査をし、対処することが出来ている。		

【コメント】

山形県5つの児童養護施設（山形県児童養護施設協議会）合同で作成した「被措置児童等虐待防止マニュアル」の読み合わせを行い、体罰や子どもの人格を辱めるような行為を行わないよう周知徹底している。また子どもに対して不適切なかかわりがあった場合は、就業規則の規程にもとづいて厳正に処分を行う仕組みが整備されている。

②	A6 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	a	A6
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりがあった場合を想定して、施設長が職員・子ども双方にその原因や方法・程度等、事実確認をすることや、「就業規則」等の規程に基づいて厳正に処分を行うような仕組みがつけられている。		
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりを発見した場合には、記録し、必ず施設長等に報告することが明文化されている。		
	<input type="checkbox"/> 暴力、人格的辱め、心理的虐待などの不適切なかかわりの防止について、具体的な例を示し、職員に徹底している。		
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止を徹底するため、日常的に会議等で取り上げ、行われていないことを確認している。		
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止について、具体的な例を示して、子どもに周知している。		
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分自身を守るための知識、具体的方法について学習する機会を設けている。		

【コメント】

不適切なかかわりの防止の視点から、子どもの部屋替えや職員の配置替えを行っている。思春期の子どもの人間関係や暴力等で、密室・死角等のないように各部屋の鍵を無くして、空き部屋は常に戸を開けて「見える化」をして早期発見に努めている。

③	A7 被措置児童等虐待の届出・通告に対する対応を整備し、迅速かつ誠実に対応している。	b	A7
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について、対応マニュアルが整備され、かつ日常的に活用できるようにしている。		
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告があった場合に、届出者・通告者が不利益を受けることのない仕組みが整備・徹底されている。		
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待が疑われる事案が生じたときに、施設内で検証し、第三者の意見を聞くなどの迅速かつ誠実な対応をするための体制整備ができています。		
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について説明した資料を子ども等に配布、説明しているとともに、掲示物を掲示するなどして、子どもが自ら訴えることができるようにしている。		

【コメント】

被措置児童等虐待の届出・通告制度については、施設内での検証と第三者委員会を設置し意見を聞くなど体制を整備している。届出・通告は事故対応マニュアルに準じた内容となっているが、届出・通告制度の対応マニュアルの作成と周知に期待したい。

(5) 思想や信教の自由の保障

①	A8 子どもや保護者等の思想や信教の自由を保障している。	a	A8
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等の思想・信教の自由については、最大限に配慮し保障している。		
	<input type="checkbox"/> 施設において子どもや保護者等の思想や信教の自由を保障しようと努めているが十分ではない。		
	<input type="checkbox"/> 保護者等の思想・信教によってその子どもの権利が損なわれないよう配慮している。		

【コメント】

地蔵尊祭りは、地域の方々を招待し野点等のもてなしで迎えて、子ども達との交流の場となり互いに楽しみな行事となっている。思想や信教については、子どもや保護者等の意思にまかせて自由を保障している。

(6) こどもの意向や主体性への配慮

①	A9 子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、そこから分離されることに伴う不安を理解し受けとめ、不安の解消を図っている。	a	A9
	<input type="checkbox"/> 入所した時、温かく迎える準備をしているなど様々な工夫を凝らし、受け入れについて施設全体で行っている。		
	<input type="checkbox"/> 被虐待体験だけでなく、子どもの分離体験に関して施設側が理解し、配慮している。		
	<input type="checkbox"/> 分離体験からの回復に関する課題への具体的な取組を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 入所の相談から施設での生活が始まるまで、子どもや保護者等への対応についての手順を定めており、定期的に見直しを行い、実践している。		

【コメント】

入所してくる子どもは、不安を抱えてくるので紹介式でそれぞれ自己紹介を行った後に、お茶会や豪華な食事メニューで歓迎している。また数日間はフリーの職員が付き添い、不安解消や安心に結びつけている。

②	A10 職員と子どもが共生の意識を持ち、子どもの意向を尊重しながら生活全般について共に考え、生活改善に向けて積極的に取り組んでいる。	a	A10
	<input type="checkbox"/> 生活改善に向けての取組を職員と子どもが共に考え、実施している。		
	<input type="checkbox"/> 生活日課や生活プログラムは子どもとの話し合いを通じて策定している。		
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分たちの生活における問題や課題について主体的に検討する機会を日常的に確保している。		

【コメント】

児童総会で出された意見や要望等については、改善できるものは善処し、難しいものについては丁寧な説明で理解を得ている。子どもの意見を取り入れてルール改正を行っている。

(7) 主体性、自律性を尊重した日常生活

①	A11 日々の暮らしや、余暇の過ごし方など健全な生活のあり方について、子ども自身が主体的に考え生活できるよう支援している。	a	A11
	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもの趣味や興味、生活文化にあった生活になるように子どもの意見を反映させ、適宜変更している。		
	<input type="checkbox"/> 図書、雑誌、新聞等、またテレビ、ビデオ、オーディオ等が、子どもの健全な発達に考慮したうえで、自由に使用できる。また、ゲームの適切な使用の配慮がされている。		
	<input type="checkbox"/> 子どもが主体的に生活に関わることができるよう工夫がされている。		
	<input type="checkbox"/> 活動に対して自発的な参加を促すよう支援している。		
	<input type="checkbox"/> 行事等の参画について、子ども一人ひとりの選択を尊重している。		
	<input type="checkbox"/> 子どもが地域の活動等に参加することを望む場合、可能な限りそれに応えている。		

【コメント】

子ども達の余暇の過ごし方は、それぞれの意思と自由に任せている。運動量が少ない場合には職員が呼びかけをして、皆でできるスポーツを取り入れ楽しさや笑いに繋がるよう健康的な生活に導いている。男女それぞれの希望する雑誌やまた寄贈された図書券で単行本等を購入して自由に見られるようにしている。

②	A12 子どもの発達段階に応じて、金銭の管理や使い方など経済観念が身につくよう支援している。	a	A12
	<input type="checkbox"/> 小遣い帳や通帳を使って、限られたお金を計画的に使用する、金銭の自己管理ができるよう支援している。		
	<input type="checkbox"/> 大人と一緒に買物に行ったり、一人で買物をさせるなど物の値段の相場や、金銭感覚が身につくよう支援している。		
	<input type="checkbox"/> 自立を控えた子どもなど、必要な子どもに対し、一定の生活費の範囲で生活することを学ぶプログラムを実施している。		
	<input type="checkbox"/> 児童手当等について、子どもの目的にあわせ適切に使用または貯蓄をしている。		

【コメント】

小遣いは年齢や子どもに合わせた金額を渡し、小遣い帳は月1回園長が確認して透明性を確保している。低学年の子どもの買い物には、職員の引率で会計時にお金を渡し支払いをさせて金銭感覚や経済観念が身につくよう支援している。

(8) 継続性とアフターケア

①	A13 家庭復帰にあたって、子どもが家庭で安定した生活を送ることができるよう復帰後の支援を行っている。	b	A13
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰にあたって復帰後の生活を検討している。		
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰後の子どもや家族の状況把握や支援方法など関係機関との役割を明確にしている。		
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰相談を受けることを本人、保護者等に伝えている。		
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰後の子どもや保護者等の状況の把握に努め記録を整備している。		

【コメント】

家庭復帰は、本人の意向や家族の状況を確認し、児童相談所との協議と施設内での検討を重ね判断している。復帰後はいつでも相談に応じる窓口を設け、相談や連絡があった場合は日誌に記録をしているが、個別記録はないので整備することに期待したい。

②	A14 できる限り公平な社会へのスタートが切れるように、措置継続や措置延長を積極的に利用して継続して支援している。	b	A14
	<input type="checkbox"/> 高校進学が困難な子どもや高校中退の子どもなどについて措置継続を行い、自立に向けた支援を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 措置延長の期間は、就労支援や就労生活を支援するなど、自立への道筋をつけていく取組を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 高校卒業して進学あるいは就職した子どもであっても、不安定な生活が予想される場合は、必要に応じて措置延長を利用して支援を継続している。		

【コメント】

措置継続や措置延長は、児童相談所との連携や体制はできているが、最近事例が少なく職員の理解不足がみられる。

③	A15 子どもが安定した社会生活を送ることができるようリービングケアと退所後の支援に積極的に取り組んでいる。	b	A15
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズを把握し、退所後の生活に向けてリービングケアの支援を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 退所後も施設に相談できる窓口(担当者)があり、支援をしていくことを伝えている。		
	<input type="checkbox"/> 退所者の状況の把握に努め、記録が整備されている。		
	<input type="checkbox"/> 行政機関や福祉機関、あるいは民間団体等と連携を図りながらアフターケアを行っている。		
	<input type="checkbox"/> 本人からの連絡だけでなく、就労先、アパート等の居住先からの連絡、警察等からのトラブル発生の連絡などにも対応している。		
	<input type="checkbox"/> 退所者が集まれる機会や、退所者と職員・入所している子どもとが交流する機会を設けている。		

【コメント】

リービングケアは個別のニーズに沿って自立に向けた内容の「巣立ちプログラム」を作成し、スムーズな社会生活が送れるように支援している。卒園生の会「若竹会」は、2年に1回旧職員も参加し開催しており、近況報告等を通して親睦の機会を設けている。

## A-2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の基本		第三者 評価結果	
①	A16 子どもを理解し、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止めている。	b	A16
	<input type="checkbox"/> 職員はさまざまな知見や経験によって培われた感性に基づいて子どもを理解し、受容的・支持的な態度で寄り添い、子どもと共に課題に向き合っている。		
	<input type="checkbox"/> 子どもの生育歴を知り、そのときどきで子どもの心に何が起こっていたのかを理解している。		
	<input type="checkbox"/> 子どもが表出する感情や言動のみを取り上げるのではなく、被虐待体験や分離体験などに伴う苦痛・いかり、見捨てられ感も含めて、子どもの心に何が起こっているのかを理解しようとしている。		
	<input type="checkbox"/> 子どもに行動上の問題等があった場合、単にその行為を取り上げて叱責するのではなく、背景にある心理的課題の把握に努めている。		
	<input type="checkbox"/> 子ども達に職員への信頼が芽生えていることが、利用者アンケートを通じて感じられる。		

【コメント】

職員の内部・外部研修を多く取り入れ、先輩職員の知識技術等のノウハウを若手職員へ指導し、子どもへの手厚い養育・支援が行われている。担当職員はできるだけ子どもと一緒に過ごし、会話から好みや性格等を把握し聞き取った内容を記録に残している。

②	A17 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活を構築することを通してなされるよう養育・支援している。	a	A17
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりの基本的欲求を把握している。		
	<input type="checkbox"/> 基本的欲求の充足において、子どもと職員との関係性を重視している。		
	<input type="checkbox"/> 高齢児の日課は、秩序ある生活の範囲内で子どもの意思を尊重した柔軟なものとなっている。		
	<input type="checkbox"/> 子どもにとって身近な職員が一定の裁量権を有し、個々の子どもの状況に応じて柔軟に対応できる体制となっている。		
	<input type="checkbox"/> 基本的な信頼関係を構築するために職員と子どもが個別的に触れ合う時間を確保している。		
	<input type="checkbox"/> 夜目覚めたとき大人の存在が感じられるなど安心感に配慮している。		

【コメント】

児童総会・高校生会議・部屋毎のお楽しみ会などで子ども一人ひとりの基本的欲求の把握を職員全体でしている。担当職員とは衣服購入などの個別の外出や用事がないときにゆっくり話をするなど、できるだけ子どもと一緒に過ごす時間を作り信頼関係に繋げている。

③	A18 子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切にし、子どもが自ら判断し行動することを保障している。	b	A18
	<input type="checkbox"/> 子どもがやらなければならないことや当然できることについては、子ども自身が行うように見守ったり、働きかけたりしている。		
	<input type="checkbox"/> 職員は必要以上の指示や制止をしていない。		
	<input type="checkbox"/> 子どもを見守りながら状況を的確に把握し、賞賛、励まし、感謝、指示、注意等の声かけを適切に行っている。		
	<input type="checkbox"/> つまずきや失敗の体験を大切にし、主体的に問題を解決していくよう支援し、必要に応じてフォローしている。		
	<input type="checkbox"/> 朝・夕の忙しい時間帯にも、職員が子どもを十分に掌握、援助できるように、職員の配置に配慮している。		

【コメント】

児童自治会の部会や毎月の誕生会などの行事は、子ども達が主体的になって開催している。朝の忙しい時間帯の職員は夜勤4人体制の継続なので、職員配置が不足しているが増員は難しい状況である。

④	A19 発達段階に応じた学びや遊びの場を保障している。	b	A19
	<input type="checkbox"/> 施設内での保育が、年齢や発育状況に応じたプログラムの下、実施されている。		
	<input type="checkbox"/> 日常生活の中で、子どもたちの学びや遊びに関するニーズを把握できている。必要性があれば可能な限りニーズに応えている。		
	<input type="checkbox"/> 幼児から高校生まで、年齢段階に応じた図書などの文化財、玩具・遊具が用意、利用されている。		
	<input type="checkbox"/> 学校や地域にある子どもたちの学びや遊びに関する情報を把握し、必要な情報交換ができている。		
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズに応えられない場合、子どもがきちんと納得できる説明がされている。		
	<input type="checkbox"/> 幼稚園に就園させている。		
	<input type="checkbox"/> 子どもの学びや遊びを保障するための、資源(ボランティア等)が十分に活用されている。		

【コメント】

異年齢（3歳から18歳）の子ども達が行事などで一緒に遊ぶ機会があり、大きい子どもが小さい子どもの世話をする様子がみられる。中学校卒業後は全員高校進学を目指しており、大学進学も可能な体制はできているが、学習ボランティアの確保が難しく課題である。

⑤	A20 秩序ある生活を通して、基本的な生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	b	A20
	<input type="checkbox"/> 職員の指示や声かけが適切で、施設全体が穏やかな雰囲気の中で秩序ある生活が営まれている。		
	<input type="checkbox"/> 普段から、職員が振る舞いや態度で模範を示している。		
	<input type="checkbox"/> 施設生活・社会生活の規範等守るべきルール、「しなければならないこと」と「してはならないこと」を理解できるよう子どもに説明し、責任ある行動をとるよう支援している。		
	<input type="checkbox"/> 見やすくわかりやすい掲示物など、子どもが社会生活を営む上での必要な知識や技術を日常的に伝え、子どもがそれらを習得できるよう支援している。		
	<input type="checkbox"/> 地域社会への積極的参加を図る等、社会的ルールを習得する機会を設けている。		

【コメント】

ボランティア受入も含めて地域の来園者が多く、会話などを通して社会的ルールを習得できるようにしている。職員は体調や精神の安定を心がけ、子どもへの接し方には感情的にならないようにして安心に繋げている。

(2) 食生活

①	A21 食事は、団らんの場でもあり、おいしく楽しみながら食事ができるよう工夫している。	b	A21
	<input type="checkbox"/> 食事の時間が適切で、食事を通して生活のリズムが形成されている。		
	<input type="checkbox"/> 無理なく楽しみながら食事ができるように、年齢や個人差に応じて食事時間に配慮している。		
	<input type="checkbox"/> 食事場所は明るく楽しい雰囲気、常に清潔が保たれている。		
	<input type="checkbox"/> 食事の時間が、職員と子ども、そして子ども同士のコミュニケーションの場として機能するよう工夫している。		
	<input type="checkbox"/> 陶器の食器等を使用したり、盛りつけやテーブルの飾りつけの工夫など、食事をおいしく食べられるように工夫している。		
	<input type="checkbox"/> クラブ活動等子どもの事情に応じて、温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという食事の適温提供に配慮している。		
	<input type="checkbox"/> 施設外での食事、来客を迎えての食事など、食事を楽しむ多様な機会を設けている。		

【コメント】

2フロア・1ユニットの大舎制であり、幼児・小学生・中学生・高校生の帰宅時間に差があるため、特に夕食は一斉に摂るのは難しい状況である。縦割りのテーブルで職員も一緒に会話を楽しみ団らんの場となっている。マイ茶碗・箸・カップは子どもと一緒に購入し、好みや手のサイズに合った物を選んでいる。

②	A22 子どもの嗜好や健康状態に配慮した食事を提供している。	a	A22
	<input type="checkbox"/> 配慮のこもった献立であるとともに子どもの発育に必要な栄養摂取量を満たした食事を提供している。		
	<input type="checkbox"/> 定期的に残食の状況や子どもの嗜好を把握するための取組がなされ、それが献立に反映されている。		
	<input type="checkbox"/> 子どもの年齢、障害や疾病、食物アレルギーなど子どもの心身の状況、また体調など日々の健康状態に応じ、それらに配慮した食事を提供している。		
<input type="checkbox"/> 少数の子どもを対象として家庭的な環境の下で調理するときであっても、配慮のこもった献立であり栄養面も勘案されるよう、献立について振り返る機会がある。			

【コメント】

栄養士の献立により全員同じメニューで盛り付け量で調節し、子どもの発育に必要な栄養摂取量を満たしている。食物アレルギーにも対応し配慮している。

③	A23 子どもの発達段階に応じて食習慣を身につけることができるよう食育を推進している。	b	A23
	<input type="checkbox"/> 食習慣の習得を、無理なく楽しみながら身につけられるよう工夫している。		
	<input type="checkbox"/> 日々提供される食事について献立の提示等食に関する情報提供等を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 食品分類やおやつの摂り方等、栄養についての正しい知識を教えている。		
	<input type="checkbox"/> 偏食の指導を適切に行っている。		
	<input type="checkbox"/> 郷土料理、季節の料理、伝統行事の料理などに触れる機会をもち、食文化を継承できるようにしている。		
	<input type="checkbox"/> 買い物を手伝って材料の選び方を知る機会を設けている。		
	<input type="checkbox"/> 箸、ナイフ・フォーク等食器の使い方や食事のマナーが習得できるよう支援している。		
	<input type="checkbox"/> 基礎的な調理技術を習得できるよう、食事やおやつを作る機会を設けている。		
	<input type="checkbox"/> テーブル拭き、食器洗い、食器消毒、残飯処理など食後の後片づけの習慣が習得できるよう支援している。		

【コメント】

郷土・季節料理や伝統行事食を献立に取り入れ、クッキーやクレープなどのおやつ作りを楽しみながら体験している。偏食や残食の指導を考慮し、食育の推進に期待したい。

(3) 衣生活

①	A24 衣類が十分に確保され、子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	a	A24
	<input type="checkbox"/> 常に衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを着用している。		
	<input type="checkbox"/> 汚れた時にすぐに着替えることができ、またTPOに合わせた服装ができるよう、十分な衣類が確保されている。		
	<input type="checkbox"/> 靴についても清潔で体に合ったものが提供され、汚れや水濡れにも適切に対応している。		
	<input type="checkbox"/> 気候、生活場面、汚れなどに応じた選択、着替えや衣類の整理、保管などの衣習慣を習得させている。		
	<input type="checkbox"/> 洗濯、アイロンかけ、補修等衣服の管理を子どもの見えるところで行うよう配慮している。		
	<input type="checkbox"/> 衣服を通じて子どもが適切に自己表現をできるように支援している。		
	<input type="checkbox"/> 発達段階や好みに合わせて子ども自身が衣服を選択し購入できる機会を設けている。		

【コメント】

衣類は季節毎に個別の購入予算があり、小学生は職員付き添いで中学生・高校生は各自で、可能な限り子どもの個性や好みに合った物を購入している。中学生位から徐々に1人で洗濯・整理・保管などができるように支援している。

(4) 住生活

①	A25 居室等施設全体がきれいに整美されている。	a	A25
	<input type="checkbox"/> 庭がきれいに清掃され、樹木や草花の植栽にも配慮が届いている。		
	<input type="checkbox"/> 室内は明るく、花や絵画が飾られるなど、温かみのある環境になっている。		
	<input type="checkbox"/> 食堂やリビングなどの共有スペースは常にきれいにし、家庭的な雰囲気になるよう配慮している。		
	<input type="checkbox"/> トイレ、洗面所等は性別や年齢に応じて使いやすいように配慮している。		
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて、冷暖房設備を整備している。		
	<input type="checkbox"/> 設備や家具什器について、汚れていたり壊れていたりしていない。破損箇所については必要な修繕を迅速に行っている。		
	<input type="checkbox"/> 発達段階や子どもの状況に応じて日常的な清掃や大掃除を行い、居室等の整理整頓、掃除等の習慣が身につくようにしている。		

【コメント】

居室は子どもが中心となって整理整頓・清掃をしており、登校後担当職員が点検している。共用空間の清掃はパート職員を雇用して、各フロアの風呂は子どもが掃除当番表に沿って行き、清潔に保たれるようにしている。

②	A26 子ども一人ひとりの居場所が確保され、安全、安心を感じる場所となるようにしている。	a	A26
	<input type="checkbox"/> 小規模グループでの養育を行う環境づくりに配慮している。		
	<input type="checkbox"/> リビングや居室は子どもが安心していられる場所になるような配慮がされている。		
	<input type="checkbox"/> 中学生以上は個室が望ましいが、相部屋であっても個人の空間を確保している。		
	<input type="checkbox"/> 年少児の居室は、職員の目の届きやすいところに配置している。		

【コメント】

部屋替えは年1回年度末に実施し、大きな移動はせず部屋担当職員との相性を考慮して原案を作り、職員会議で話し合って決定している。中学生・高校生のほとんどが個室になっており、相部屋でのトラブルも少ない。

(5) 健康と安全

①	A27 発達段階に応じ、身体の健康（清潔、病気、事故等）について自己管理ができるよう支援している。	a	A27
	<input type="checkbox"/> 常に良好な健康状態を保持できるよう、睡眠、食事摂取、排泄、生理等の状況を職員がきちんと把握している。		
	<input type="checkbox"/> 手洗いやうがいの習慣が身に付くよう支援している。年少児については排泄後の始末や入浴の介助をしている。		
	<input type="checkbox"/> 洗面、整髪、ひげそり、歯磨き、つめ切り、耳そうじ等身だしなみについて、発達に応じて自ら行えるよう支援している。また必要に応じて入浴やシャワーが利用できるなどの配慮がされている。		
	<input type="checkbox"/> 定期的に理美容をしている。		
	<input type="checkbox"/> 寝具の日光消毒や衣類などを清潔に保つなど、衛生管理ができるよう支援している。また夜尿のある子どもについては、子どもの自尊心に配慮しながら支援している。		
	<input type="checkbox"/> 施設内外における危険箇所等を把握し、子どもの発達段階に応じて、危険物の取扱いや危険な物・場所・行為から身を守るための支援を行っている。		
<input type="checkbox"/> 子どもの交通事故を防止するため、交通ルール等について日頃から子どもに教えている。			

【コメント】

集団生活の中で健康・衛生管理は重要と捉え、手洗い・うがいの徹底、共有空間への加湿器設置、毎月の体重測定・散髪などを実施している。子ども一人一台の自転車を所有し、自転車教室や学校・学園のルールに従いヘルメットを着用して安全に使用している。

②	A28 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康を管理するとともに、必要がある場合は適切に対応している。	a	A28
	<input type="checkbox"/> 子どもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握し、定期的に子どもの健康管理に努めている。		
	<input type="checkbox"/> あらかじめ関係機関の協力が得られるよう体制整備をしている。		
	<input type="checkbox"/> 健康上特別な配慮を要する子どもについては、医療機関と連携して、日頃から注意深く観察し、対応している。		
	<input type="checkbox"/> 受診や服薬が必要な場合、子どもがその必要性を理解できるよう、説明している。服薬管理の必要な子どもについては、医療機関と連携しながら服薬や薬歴のチェックを行っている。		
	<input type="checkbox"/> 職員間で医療や健康に関して学習する機会を設け、知識を深める努力をしている。		

【コメント】

学園での健康診断は年2回、嘱託医によって実施している。子どもが不調を訴え欠席を望んだ時は必ず受診することを徹底している。服薬管理は専用の棚に保管し、ボードに貼り付けている服薬表でチェックするなどの確認をしている。

(6) 性に関する教育

①	<p>A29 子どもの年齢・発達段階に応じて、他者の性を尊重する心を育てるよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。</p>	a	A29
	<p><input type="checkbox"/> 他者の性を尊重し、年齢相応で健全な他者とのつき合いができるよう配慮している。</p>		
	<p><input type="checkbox"/> 性をタブー視せず、子どもの疑問や不安に答えている。</p>		
	<p><input type="checkbox"/> 性についての正しい知識、関心が持てるよう、年齢、発達段階に応じたカリキュラムを用意し、支援している。</p>		
	<p><input type="checkbox"/> 必要に応じて外部講師を招く等して、性教育のあり方について学習会などを職員や子どもに対して実施している。</p>		

【コメント】

高校生の性教育は個別指導を基本とし、生命の尊厳を意識させている。小学生・中学生には山形県児童養護施設協議会で作成した性教育紙芝居を利用し、職員は羞恥心を取り払って慎重に取り組んでいる。

(7) 自己領域の確保

①	<p>A30 でき得る限り他児との共有の物をなくし、個人所有とすようにしている。</p>	a	A30
	<p><input type="checkbox"/> 子どもが小さい頃から、自他の境界線がわかるような支援方法を心がけている。</p>		
	<p><input type="checkbox"/> 身につけるもの、日常的に使用するもの、日用品などは、個人所有としている。</p>		
	<p><input type="checkbox"/> 個人の所有物が保管できるよう個々にロッカー、タンス等を整備している。</p>		
	<p><input type="checkbox"/> 紛失防止のためにも、個々の子どもたちに片付け方を教えている。</p>		
	<p><input type="checkbox"/> 個人所有の物は、でき得る限り子どもの好みを尊重している。</p>		
	<p><input type="checkbox"/> まだ字が読めない子どもに対しては、イラストマークを使用するなどして、所有物がわかる工夫をしている。記名やマークは、でき得る限り子どもからの許可を得、子どもが恥ずかしくならなくても済むような場所に留める。</p>		

【コメント】

衣類・日用品・学用品は個人所有とし、衣類への記名はタグにするなどしてなるべく目立たないように配慮している。タンスに個人毎に保管して、物を大切に扱うことや大事にすることなどを教えている。

②	A31 成長の記録（アルバム等）が整理され、成長の過程を振り返ることができるようにしている。	a	A31
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりに成長の記録（アルバム等）が用意され、空白が生じないように写真等の記録の収集、整理に努めている。		
	<input type="checkbox"/> 成長の過程を必要に応じて職員と一緒に振り返ることができ、子どもの生い立ちの整理につながっている。		
	<input type="checkbox"/> 可能な子どもとは共に、成長の記録（アルバム等）を整理している。		
	<input type="checkbox"/> アルバム等は年齢や状況に応じて個人が保管し、子どもがいつでも見ることができる。		
	<input type="checkbox"/> 子どもが施設を退所する時に、成長記録（アルバム等）が手渡されている。		

【コメント】

子ども一人ひとりの成長の記録としてアルバム等を担当職員が中心となって子どもと一緒に整理しており、いつでも見られるように個人の保管場所に置いている。学園を退所するときは手渡し、いらないと断られたときは家に送付するときもある。

(8) 行動上の問題及び問題状況への対応

①	A32 子どもの暴力・不適応行動などの行動上の問題に対して、適切に対応している。	a	A32
	<input type="checkbox"/> 施設が、行動上の問題があった子どもにとっての癒しの場になるよう配慮している。また、周囲の子どもを安全を図る配慮がなされている。		
	<input type="checkbox"/> 施設の日々の生活が持続的に安定したものとなっていることは、子どもの行動上の問題の軽減に寄与している。また子どもの行動上の問題が起きた時も、その都度、問題の影響を施設全体で立て直そうと努力している。		
	<input type="checkbox"/> 不適切な行動を問題とし、人格を否定しないことに配慮をしている。職員の研修等を行い、行動上の問題に対して適切な援助技術を習得できるようにしている。暴力を受けた職員へ無力感等への配慮も行っている。		
	<input type="checkbox"/> くり返し児童相談所、専門医療機関、警察等と協議を重ね、事態改善の方策を見つけ出そうと努力している。		

【コメント】

発達障害の子どもが増えており、突然の暴力がおきることもあり、職員は冷静な対応を心掛け必ず複数の職員で対応し、女性職員は出ないように配慮している。専門的技術と経験を活かして、また医療機関等との連携を図りながら対応している。

②	A33 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	a	A33
	<input type="checkbox"/> 人権に対する子どもの意識を育むよう支援をしている。日頃から他人に対する配慮の気持ちや接し方を職員が模範となって示し、子どもへ説明をしている。		
	<input type="checkbox"/> 問題の発生予防のために、施設内の構造、職員の配置や勤務形態のあり方についても点検を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 生活グループの構成には、子ども同士の関係性、年齢、障害などへの配慮の必要性等に配慮している。		
	<input type="checkbox"/> 課題を持った子ども、入所間もない子どもの場合は特別な配慮が必要となることから、児童相談所と連携して個別援助を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 大人(職員)相互の信頼関係が保たれ、子どもがそれを感じ取れるようになっている。子ども間での暴力やいじめが発覚した場合には、施設長が中心になり、全職員が一丸となって適切な対応ができるような体制になっている。		

【コメント】

子どもによっては生育環境から善悪の判断ができないなどの場合もあり、社会の中で身についていけるよう養育・支援を行い「悪いことは悪い」ときちんと伝えている。子ども同士のいじめが職員の見えないところで行われないよう、空部屋の戸は開けておくようにするなど対策を講じている。

③	A34 虐待を受けた子ども等、保護者等からの強引な引取りの可能性がある場合、子どもの安全が確保されるよう努めている。	a	A34
	<input type="checkbox"/> 強引な引取りのための対応について職員に周知徹底している。		
	<input type="checkbox"/> 引取りの可否等について、児童相談所との連絡を適宜行い、判断が不統一にならないようにしている。		
	<input type="checkbox"/> 緊急時には協力を依頼できるよう、警察との連携を図っている。		
	<input type="checkbox"/> 強引な引取りが考えられる場合、他の子どもへの安全についても配慮がされている。		

【コメント】

保護者の強引な引き取りにはどんな場合も本人の同意を得ることになっている。電話も本人の意向を確認してから取り次ぐ事とし、児童相談所との連携を図り対処している。

(9) 心理的ケア

①	A35 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	a	A35
	<input type="checkbox"/> 心理的な支援を必要とする子どもについては、自立支援計画に基づき心理支援プログラムが策定されている。		
	<input type="checkbox"/> 施設における職員間の連携が強化されるなど、心理的支援が施設全体の中で有効に組み込まれている。		
	<input type="checkbox"/> 心理的なケアが必要な子どもへの対応に関する職員研修やスーパービジョンが行われている。		
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて心理の専門家から直接的支援を受ける体制が整っている。		
	<input type="checkbox"/> 心理的支援を行うことができる有資格者を配置し、心理療法室を設置している。		
	<input type="checkbox"/> 児童相談所と連携し、対象となる子どもの保護者等へ定期的な助言・援助を行っている。		

【コメント】

虐待を受けた子どもや発達障害の子どもが増えていることもあり、現在16名の子どもが心理士による心理的ケアを受けている。心理療法室にて1対1で関わっている。職員は大学などの専門講師により年10回のスーパービジョンを受けて子どもの情緒の安定に努めている。

(10) 学習・進学支援、進路支援等

①	A36 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。	a	A36
	<input type="checkbox"/> 静かに落ち着いて勉強できるように個別スペースや学習室を用意するなど、学習のための環境づくりの配慮をし、学習習慣が身につくよう援助している。		
	<input type="checkbox"/> 学校教師と十分な連携をとり、常に子ども個々の学力を把握し、学力に応じた個別的な学習支援を行っている。一人ひとりの必要に応じて、学習ボランティアや家庭教師、地域の学習塾等を活用する機会を提供している。		
	<input type="checkbox"/> 学力が低い子どもについては、基礎学力の回復に努める支援をしている。		
	<input type="checkbox"/> 忘れ物や宿題の未提出について把握し、子どもに応じた支援をしている。		
	<input type="checkbox"/> 障害を持つ子どものために、通級による指導や特別支援学級、特別支援学校等への通学を支援している。		

【コメント】

学園の地域性などから学習ボランティアの確保が難しい状況にあるが、学習室の環境を整え一人ひとり目標を持って学習できるよう支援している。本人の希望があれば塾へ行くことも可能としている。

②	A37 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	a	A37
	<input type="checkbox"/> 早い時期から進路について自己決定ができるよう進路選択に必要な資料を収集し、子どもに判断材料を提供し、子どもと十分に話し合っている。		
	<input type="checkbox"/> 進路選択に当たって、親、学校、児童相談所の意見を十分聞き、自立支援計画に載せ、各機関と連携し支援をしている。		
	<input type="checkbox"/> 奨学金など進路決定のための経済的な援助の仕組みについての情報等も提供している。		
	<input type="checkbox"/> 進路決定後のフォローアップや失敗した場合に対応する体制ができており、対応している。		
	<input type="checkbox"/> 中卒児・高校中退児に対して、就労させながら施設入所を継続することで十分な社会経験を積めるよう支援している。		
	<input type="checkbox"/> 高校卒業後も進学を希望する子どものために、資金面、生活面、精神的面など、進学の実現に向けて努力をしている。		

【コメント】

進路の選択については本人の意向を優先に学校や保護者、児童相談所と連携し「最善の利益」になるよう話し合い決定している。職業高校に通っている子どもは学校からの紹介またハローワークからの情報を得て進路に繋いでいる。

③	A38 職場実習や職場体験、アルバイト等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	b	A38
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、社会の仕組みやルールなど、自分の行為に対する責任について話あっている。		
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、金銭管理や生活スキル、メンタル面の支援など、子どもの自立支援に取り組んでいる。		
	<input type="checkbox"/> 実習先や体験先の開拓を積極的に行っている。		
	<input type="checkbox"/> 職場実習の効果を高めるため、協力事業主等と連携している。		
	<input type="checkbox"/> アルバイトや、各種の資格取得を積極的に奨励している。		

【コメント】

アルバイトは学校の規則に沿って長期の休み等を利用して行っている。社会に出る前の体験として実習等を進めたいとしているが、受け入れてくれる企業が減少しており苦慮している。ボランティアとして繋がりのある商工会などに働きかけるなど期待したい。

(11) 施設と家族との信頼関係づくり

①	A39 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。	a	A39
	<input type="checkbox"/> 施設の相談窓口および支援方針について家族に説明し、家族と施設、児童相談所が子どもの成長をともに考えることを伝え、家族と信頼関係を構築できるよう図っている。		
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員の役割を明確にし、施設全体で家族関係調整、相談に取り組んでいる。		
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅などを取り入れ子どもと家族の継続的な関係づくりに積極的に取り組んでいる。		
	<input type="checkbox"/> 外出、一時帰宅後の子どもの様子を注意深く観察し、不適切なかかわりの発見に努め、さらに保護者等による「不当に妨げる行為」に対して適切な対応を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 子どもに関係する学校、地域、施設等の行事予定や情報を家族に随時知らせ、必要に応じて保護者等にも行事への参加や協力を得ている。		

【コメント】

家庭支援専門相談員2名が中心になり家族との信頼関係を図り連絡・調整にあたっている。家庭復帰については面会や正月・お盆・春休み・冬休みなどを利用しての外泊で様子を見極めながら支援する体制を築いている。

(12) 親子関係の再構築支援

①	A40 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	a	A40
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員を中心に、ケースの見立て、現実的な取組を可能とする改善ポイントの絞り込みを行うなど、再構築のための支援方針が明確にされ施設全体で共有されている。		
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅、あるいは家庭訪問、施設における親子生活訓練室の活用や家族療法事業の実施などを通して、家族との関係の継続、修復、養育力の向上などに取り組んでいる。		
	<input type="checkbox"/> 児童相談所等の関係機関と密接に協議し連携を図って家族支援の取組を行っている。		

【コメント】

親子関係の再構築については親子生活訓練室を利用して数時間過ごしたり、泊まったりして関係を取り戻せるよう支援している。発達障害の子どもに対しては親自身が接し方を学び、虐待を未然に防げるよう関係機関と協力している。

(13) スーパービジョン体制

①	A41 スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。	b	A41
	<input type="checkbox"/> スーパーバイザーを配置し、いつでも相談できる体制を確立している。		
	<input type="checkbox"/> 職員に対するスーパービジョンを定例的に行い、職員がひとりで問題を抱え込まないように、スーパーバイザーなどを通じて、組織としての働きかけをしている。		
	<input type="checkbox"/> スーパーバイザー以外にも職員相互が評価し、助言し合うことを通じて、職員一人ひとりが支援技術を向上させ、施設全体の支援の質を向上させるような取組をしている。		
	<input type="checkbox"/> スーパーバイザーは、職員からの信頼が得られるよう、研修に参加するなど質の向上に努めている。		
	<input type="checkbox"/> 国が定める基幹的職員を設置している。		

【コメント】

スーパーバイザーの配置はないが、心理担当職員は配置している。専門家による年10回のスーパービジョンを受け、年3回のケース検討会で支援技術の向上に努めている。